

当日『ゴルフを楽しむ会』を新緑の近江富士カントリークラブにて実施しました。参加者は予定より少なくなり12名でしたが、今回も関西地区から三島 湛さんが参加され、大変意義のある会になり、皆さん楽しくプレーされました。

この時期には珍しく好天微風に恵まれ絶好のゴルフ日和となり、季節や天候や自分の体調によって戦略を操る悦びを実感されたことでしょう。

やはり、パットとグリーンまわりの攻略に結果が大きく左右されました。良かった人はこれを励みに、そうでない人は課題を克服し、共に楽しいゴルフを続けて行きましょう。

次回も初参加の方を歓迎します、奮ってご参加下さい。

○なぜゴルフをするのか

なぜ、あきもせずゴルフをするのか、身の回りのゴルファーに聞いてみると、『健康のため』『つきあい』『家にいてもつまらないから』『人と競い合うスリル』『気分が爽快になる』『シェイプアップのため』など、さまざまな答えが返ってきた。が、はたしてそれだけだろうか。

南カリフォルニア大学助教授で行動科学者のウィリアム・モブリーは、ゴルフというゲームに備わっているとくに効果的な動機づけの要因を分析し、それを仕事の動機づけに応用することを教えている。ビジネスはよくスポーツにたとえられるが、なぜとくにゴルフなのだろう。仕事を頭に置きながら、教授があげる五つの要因をみていこう。

1) 目標の明確さ

眼にみえるピン(具体的ならびに象徴的な目標)。容易には達成できないが、達成不可能ではないバー。自分のスコアー。バーと、自分自身のスコアーと、他のプレイヤーとの競い合い。

2) ゲームの完結性

ティーからグリーンまで完全に責任をもたされる。最終ホールまで、自分の腕しだい。

3) フィードバック

各ショットごと、各ホールごと、9番ホールと18番ホールの後のフィードバック。

4) 多様な技能を駆使できる

ホールによって異なるコンディション。クラブの種類。フィジカルな要素とメンタルな要素。

5) 判断

距離の判断。グリーンを読む。クラブを選ぶ。スタンスを決め、調整し、グリップを整え、スイングする。

確かに、長時間にわたるプレーを持続させるだけの動機づけが揃っている。もしゴルファーの眼にはっきりピンが見えず、バーを知らされず、年間の成績発表以外にはフィードバックを与えられず、一種類のクラブしか使えず、自分の判断を奪われたら、二度とやる気は起こらないだろう。

あなたは、そしてあなたの部下は、このような動機づけを与えられて、仕事をしていきますか。

(担当: 柴原 喬)

廣瀬幸一